

研 究 所 だ よ り

第3号



= ふれあい教室体験活動 =

～目 次～

研究協力校中間報告:穴内小学校	1
赤野小学校	3
井ノ口小学校	5
川北小学校	7
算数・数学科スーパーバイザーによる授業改善研究会	10
教育支援センター	11
リレー寄稿(教育研究所運営委員 土居小 小松 良浩校長)	14

【研究協力校 穴内小学校】

1. 研究主題

確かな学びの定着を図る

～自ら学ぶ力を育む、少人数・複式学級における学習指導のあり方～

2. 授業を通して目指す児童像・教師像

児童像 「自分の考えをもち、自分の言葉で説明できる児童」

教師像 「児童が主体的・対話的な学習を通して、一人一人の学びが広がる授業」

「児童が根拠をもとに内容を整理し、わかりやすく相手に伝え合える授業」

3. 研究主題に迫る取り組み 《 》研究仮説

(1) 研究仮説の検証

年度当初から取り組んでいる《組織的な研究体制と実践内容の共有を図り、授業スタンダードによる主体的・対話的な児童主体の学びを保障することで、児童が学びに見通しを持って学習を進める》ことができている。また、ペア学習や全体で学習の見通しを話し合うことで、積極的な自力解決ができてきた。特に、《学びのキーワードを用いることで、解決に向けた学びの見当を自らが考え、めあて・まとめ・振り返りの連動》が生じている。また、タブレット端末を活用することで、《個々の学びや集団での学びが広がる》につなげることができてきた。上級生になれば、授業者が最初に提示するキーワードを少なくする中で、全体で見当をつける時や学びの気づきを出し合う時に、根拠となるキーワードを児童自らが発見しまとめへと繋げることができ始めた。

今回の中間検証(12月)において、年度当初設定した【研究主題に迫るための仮説】が徐々に立証してきたと感じている。また、【具体的に期待する成果】においてもその成果は授業に現れているように思える。例えば、タブレット端末(ロイロノート)を活用し、自己の考えの整理をすることで、全体で学びを共有しながら学習を進めることに繋がってきた。児童の学習の成果物として、学習ノートにも足跡が残っている。

(2) 2学期の実践

① 1・2年生の算数科授業の様子

1・2年生の授業では、本時の学習のキーワード(既習の算数用語)を使い、学習のめあてを自分たちで決めて学習を進めている。学習課題に適しためあてが設定されるように、めあての筋道は授業者が決めている。上級生になれば、自分たちでめあて全体を決めることができるようになってくる。次に、まず児童は一人学びとして学習の見通しを持ち、その学習の見通しを全体で話し合う。この時、キーワードを使い、数や式をふまえて説明できるようにしている。そして、電子黒板やホワイトボードを活用し、めあてを解決するために話し合っていく時間を大切にしている。複式授業での授業者の立ち位置としては、基本両学年の学習を支援しながら、学習のポイントとなる場面を決めておき、学習内容がずれないように支援・指導している。まとめも児童が行い、学習の理解度を見るために、ロイロノートを活用し個別に問題を考えたり、時には、スライドで確認し合ったりしている。最後に学習のふりかえりを算数ノートに書くことで、学習評価の一つになっている。



【話し合いながら問題を考えている場面】



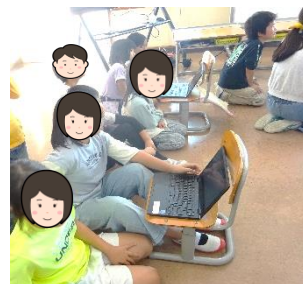
【タブレット端末での学習の場面】



【ふりかえりノート】

②全校で取り組む「ICT タイム」

毎週行われている全校での「ICT タイム」を活用し、縦割り班でタブレット端末のロイロノートを使い動画の「穴内小学校の紹介」を作成している。



③学習評価

ア 電子黒板やタブレット端末の活用が迅速に行えるようになり、自分の考えを画面上で分かりやすく伝えることが多くなった。

イ 教科書・ノート・電子黒板・タブレット端末を必要に応じて学習用具とした学びが進んでおり、個別学習と協働学習ができ始めている。

ウ 対話型授業を仕組むことで、自分の考えが言える学習環境が整ってきたことや他者の考えを認め合い学びを進める時間が増えてきた。

【研究協力校 赤野小学校】

研究主題

「主体的・対話的で深い学びを生み出す複式授業」
～数学的活動を通して自分の考えを出し合える授業の創造～

1 研究内容

2 学期以降は、以下のような授業研究・校内研修を中心として実践研究を推進してきた。

日	主な取り組み
8 月 21 日	令和の授業づくり講座 川北小学校教材研究会（3 名参加）
8 月 26 日	講師招聘研修 「国語の授業をどう作るかー説明的文章ー」 高知大学大学院教職実践高度化専攻教授 岩城 裕之氏
8 月 26 日	特別活動指導案検討会
9 月 11 日	特別活動授業研究（第 5・6 学年） 講師：東部教育事務所 清岡 志保指導主事
9 月 26 日～	4 年生国語科（一つの花）香南市立吉川小との遠隔授業
10 月 11 日	5・6 年生複式授業参観（1～4 年生）
10 月 23 日	算数科指導案検討会
11 月 26 日	算数科授業研究（第 1・2 学年） 講師・鳥取大学名誉教授 矢部 敏明氏
12 月 13 日	高知県学力定着状況調査分析・3 学期からの授業改善について

2 研究経過

（1）授業力向上の取組

- ① 国語科校内研修 講師：高知大学大学院教職実践高度化専攻教授 岩城 裕之氏
「国語の授業をどう作るかー説明的文章ー」



【講師より】

- ・1 年生から 6 年生まで、どのような系統になっているのかを確認することが大切である。そのことが、文章などを分析する視点に繋がる。
 - ・説明文の学年別の特徴を把握し、適切な言語活動を設定することが大切。
- 1 年…説明したいものを決め、観点別に情報を整理して書いてみる。
- 2 年…説明したいことを決め、観点別と一部時系列に情報を整理して書いてみる。
- 3・4 年…説明したいことを書き、最後に一言まとめてみる。
- 5・6 年…主張したい意見を決め、それを説明する例を図表などを活用して書いてみる。

② ICT の効果的活用 ＊高知大学教職大学院との連携

【第4学年国語科：一つの花 全10時間 香南市立吉川小学校との遠隔授業】



【成果】

- ・継続的な遠隔協働学習を行うことにより、非認知的能力の育成に効果的であった。ペア対話を毎時間取り入れ、その内容を代表して1人が全体に共有する流れを設定したことにより、相手の意見や考えを汲み取ろうとする責任感が生まれた。相手から理由が述べられない場合も、質問を行うことで互いの理解を深めるやりとりが自発的に行われたり、自分の意見が相手に伝わったかを確認めたりする意識が高まった。等

【児童の感想より】

- ・発表が苦手だったけど、相手校との遠隔授業で頑張れるようになり、発表することが得意になった。
- ・いろんな人がいたから、他の人の意見をよく聞けて普段できない授業ができたし、自分の意見を言えるようになった。等

【課題】

- ・深い読み取りについては対面での授業が効果的である。等

③ ひとり学び・とも学びの充実に向けて

【5・6年生模範授業参観】



○自分たちのゴールの姿を子どもたちに見せることで、より質の高いひとり学び・とも学びの充実を図ることをできると考えた。

【児童の感想より】

- ・友だちの考えを最後まで聞き、それに対してどうかということを丁寧に説明することができていた。
 - ・学習の流れにそって自分たちで進められていた。ひとり学びのときは静かに取り組み、とも学びのときは足りない言葉などをつけたしながら説明できていた。
- ＊今の自分たちの授業と比較することで、参考にする点は何だったかを振り返らせた。

④ 第1・2学年算数科授業研究 「かたちあそび・かたちづくり」「長方形と正方形」

講師：鳥取大学名誉教授 矢部 敏明氏



【講師より】

- ・一つの指示、少ない教師の動きでどれだけ充実させられるか。低学年からの積み上げが大切である。
- ・終わったら次何をするのか、自分で言える子を育てたい。
- ・「何を」「どのように学び」「どのような力が付いたのか」までを見取るために、適応問題までは必ずやることが大切。等

【研究協力校 井ノ口小学校】

研究主題

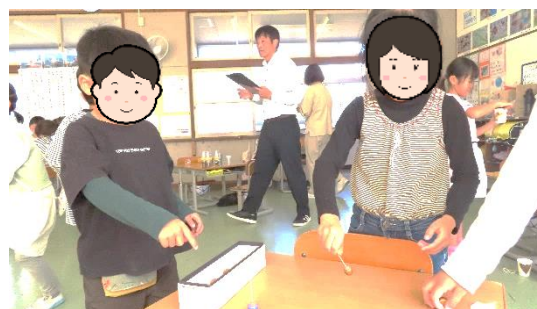
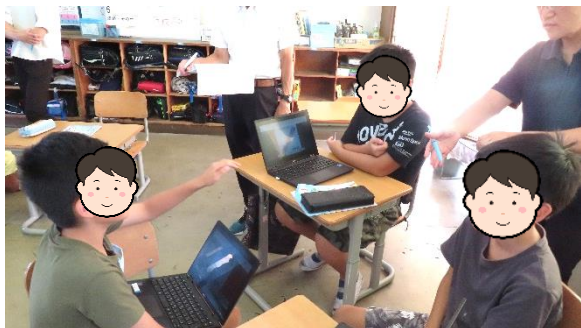
「豊かな表現力の育成と主体的な学びの実現」
「明日も来たい井ノ口小学校」を合言葉に

研究主題達成に向けての2学期の取組

1. 豊かな表現力の育成と主体的な学びの実現

(1) 授業研究

- ①4年生外国語活動授業研究
- ②3年生算数授業研究
- ③1年生生活科授業研究



(2) 学校ビジョン研修

- ①児童のよさの共有
- ②児童の課題
- ③こんな児童にしたい
- ④取組の3本柱の決定

2. 基礎基本の定着

(1) 家庭学習

予習型の宿題と習熟確認の宿題のバランスを考える

(2) 自主学習ノート展

2～6年生の良いノートを校内に掲示

(3) 4・5年生県版学力調査

自校採点分析後取組を確認

(4) ICT教育の推進

- ①授業での活用について研修
- ②児童が考えをまとめ、発表・表現・振り返る場面を設定
- ③毎日の持ち帰り（宿題、次の日の予定を確認）

3. 温かい学級・学校づくり

(1) 職員会での児童理解

(2) 児童理解研修（講師：是永かな子先生、中尾繁樹先生）

(3) Q-U アンケート 2 回目分析交流

(4) 学校生活アンケート 2 回目聞き取り、職員会で交流

(5) 校内支援会

(6) 支援ミーティング



4. 楽しい学級・学校づくり

(1) 縦割り班活動

①運動会での縦割り班競技

②体育集会での縦割り班ゲーム

③後期縦割り班編成

(2) 学級活動「運動会スローガンづくり」

①運営委員会から児童へ呼びかけ

②学級会で話し合い

③代表委員会で決定

④スローガンを達成するために学級で話し合い

⑤運動会後振り返り



(3) 道徳の授業改善等

①研修内容の共有

②3年生授業研究会

③道徳アンケートの分析・考察

④道徳だより発行



5. その他

(1) 異学年交流

①1年生と6年生の焼いも

②2年生と1年生のおもちゃ祭り

③1年生と保育園児のおもちゃ祭り

④5年生と保育園児のおみせやさんごっこのおもちゃづくり

⑤3年生と6年生の柚子取り

(2) 地区民運動会への参加（小学生種目）



(3) 地域のミニデイ（地区社協主催）への参加 2年生

【研究協力校 川北小学校】

1. 研究テーマ

互いに認め合い、自分の考えを伝え、協働的に学ぶ児童の育成
～主体的に考え、根拠をもとに説明（表現）する力を身に付ける授業を通して～

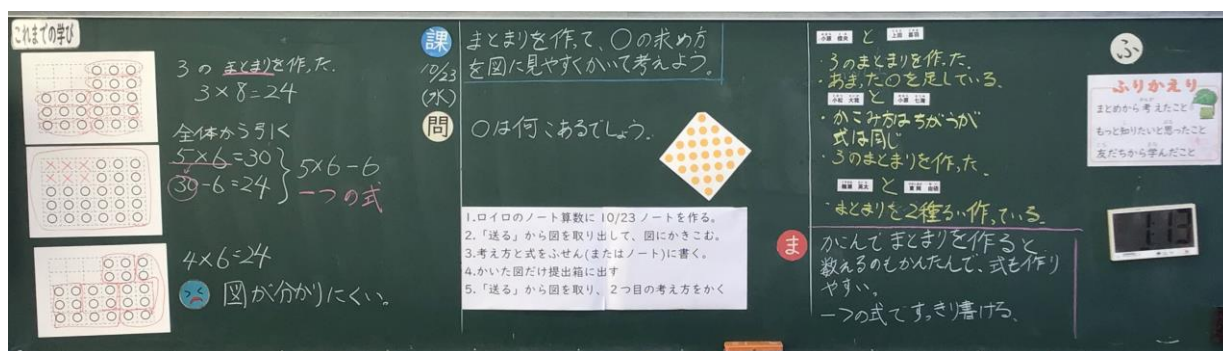
2. 研究経過

- 4月18日（木）全国学力学習状況調査、総合学力調査（ベネッセ：4・5年生）
- 5月8日（水）全国学力調査自校採点の分析と共有、共通取組の確認
- 5月15日（水）算数科教材研究会 2年「100より大きい数をしらべよう」
提案者：長谷和樹 教諭 講師：上村詩織指導主事（東部教育事務所）
- 6月14日（金）算数科授業研究会 2年「100より大きい数をしらべよう」
授業者：長谷和樹 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 6月19日（水）算数科教材研究会 6年「割合の表し方を調べよう」
提案者：木村直樹 教諭 講師：上村詩織指導主事
＜AM 是永かな子先生学校訪問：児童観察（1～3年生）と助言指導＞
- 7月3日（水）＜AM 是永かな子先生学校訪問：児童観察（4～6年生）と助言指導＞
- 7月4日（木）算数科授業研究会 6年「割合の表し方を調べよう」
授業者：木村直樹 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 7月26日（金）校内研修「授業づくり講座（教材研究会）に向けて」
- 7月29日（月）総合学力調査（4・5年生）の結果分析と共有、2学期の取組確認
- 8月21日（水）授業づくり講座【算数 教材研究会】 3年「計算のやくそくを調べよう」
提案者：橋詰歩佳 教諭
講師：笠井健一 先生【文部科学省初等中等教育局教育課程教科教科調査官】
上村詩織指導主事（東部教育事務所）
- 9月12日（木）算数科教材研究会 4年「計算のやくそくを調べよう」
提案者：谷澤和人 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 10月9日（水）校内研修「授業づくり講座（授業研究会）に向けて」
- 10月23日（水）算数科授業研究会 4年「計算のやくそくを調べよう」
授業者：谷澤和人 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 11月1日（金）授業づくり講座【算数 授業研究会】 3年「計算のやくそくを調べよう」
授業者：橋詰歩佳 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 11月11日（月）～22日（金）授業力向上週間
- 11月15日（金）算数科教材研究会 1年「かたちあそび」
提案者：高尾優希 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 12月3日（火）高知県学力定着状況調査、総合学力調査（ベネッセ：1～3・6年生）
- 12月5日（木）算数科教材研究会 1年「かたちあそび」
提案者：高尾優希 教諭 講師：上村詩織指導主事
- 12月11日（水）＜AM 是永かな子先生学校訪問：児童観察（全学年）＞
- 12月16日（月）＜AM 是永かな子先生学校訪問：情報共有と助言指導＞
- 1月6日（月）高知県学力定着状況調査（4・5年生）の結果分析と共有、3学期の取組確認

3. 研究推進の概要【2学期の授業研究から】

(1) 4年算数授業研究会「計算のやくそくを調べよう」授業者：谷澤和人 教諭

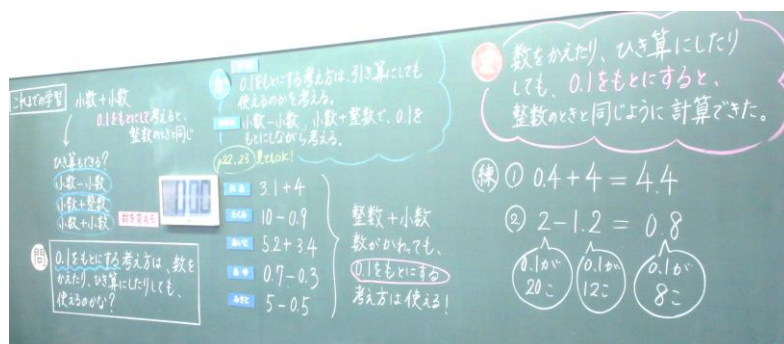
本時は「ドット図の数の求め方を図や式に表したり、図から式を読みとって説明したりすることができる」ことを目標とし、数のまとまりに着目して、式の表し方について考える授業であった。協議の視点は「児童が見方・考え方を働かせながら活動できていたか」「数学的活動の流れに沿った授業になっていたか」の2点について、「導入」「自力解決」「ペア・全体共有・まとめ」「振り返り・適用」の4つの場面で協議を行った。



(2) 3年算数授業づくり講座（授業研究会）「数の表し方やしくみを調べよう」

授業者：橋詰歩佳 教諭

本時は「小数の表し方と仕組みに着目し、加減法の計算の仕方を考え、説明することができる」ことを目標とし、児童一人一人が課題を設定し、課題解決に取り組んでいた。協議の視点は「児童が見方・考え方を働かせていたか（具体的な場面、様子や発言があったか）」「ICTを効果的に活用できていたか」の2点について、上記の4つの場面で協議を行った。個々の課題解決の方法をロイロノートで共有したり、毎時間個々の課題を設定して、ふり返りをスプレッドシートに入力したりするなど、本時だけでなく単元を通してICTを有効に活用することができていた。当日の会は、約40名の参加者（本校教員を含む）があり、深い学びのある協議が行われていた。



(3) 1年算数授業研究会「かたちあそび」授業者：高尾優希 教諭

本時は「箱などの身の回りの具体物からその属性を捨象して形をとらえ、立体図形の特徴をまとめる」ことを目標とし、課題解決に取り組んでいた。協議の視点は「児童が見方・考え方を働かせていたか」「本時の流れがこれでよかったのか」の2点について、場面ごとに協議を行った。自力解決の場面では、見方・考え方を働かせながら箱を分類していたが、条件を揃えるなどの配慮が必要であった。全体共有の場面では、物の形（まる、しかくなど）による分類は理解できていたが、物の特徴（重ねられる、転がるなど）について、さらに深める必要があった。



(4) 授業力向上週間について

① 目的

- 児童の学力向上と教員の指導力向上
- 学習スタンダードの定着、個別最適・協働的な学びの実践
- 各種学力調査分析の取組の継続
- 主要4教科（国・社・算・理）の授業研究

② 対象

- 1～6年担任、（参観のみ）校長先生、教頭先生、支援学級の先生

③ 実施期間

- 11月11日（月）～11月22日（金）

④ 実施方法

- 授業参観できる時間を確認する（空き時間、6校時、体育等）
- 見たい人に交渉 ⇒ 教科は何か、日付・時間帯はいつか、希望を伝える
- 基本断らない ⇒ どうしても無理（教科・時間等の問題）な場合は、別日を提案する
- 授業参観時、板書を撮影
- 授業参観後、感想シートを記入（良かったところ、今後改善すると良い点など）
- 感想シートを授業者にわたす ⇒ 授業改善に生かす

4. 自主ノートコンテスト【2学期】の取組

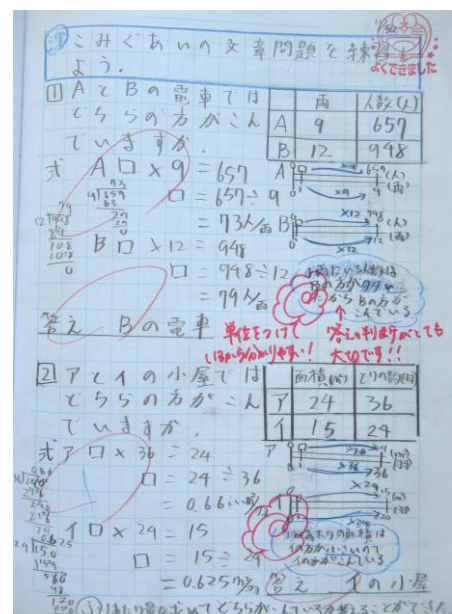
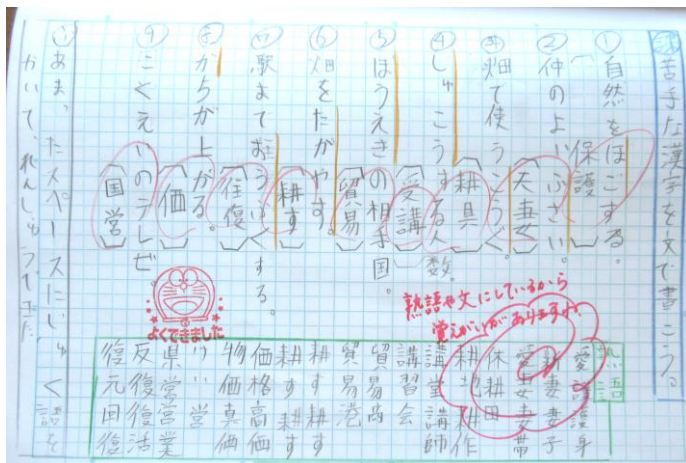
(1) ねらい

- 3～6年生：自分とは違うノートの学習内容や工夫の仕方をを見つけ、今後の参考にする。
お互いの自主学習ノートの評価し合い、更なる意欲付けを図る。
- 1～2年生：自主学習の仕方を見て学んだり、見やすいノートの工夫を見つけたりする。

(2) よいノートの目安

- 算・国・理・社・外など、多教科にわたり学習している。
- 日付、課題、ふり返りを書いている。
- 丁寧にノートいっぱい学習している。
- 図や絵も使いながら、見やすいノートづくりをしている。
- わく組み、色使い、適度なすき間など工夫している。
- 丸付けや直しも自分でしている。

※ 自主ノートは、保健室前廊下に展示している。



第2回算数・数学スーパーバイザーによる授業改善研究会

第2回目の算数・数学スーパーバイザーによる授業改善研究会が11月26、27日に赤野小学校、土居小学校で行われました。それぞれの学校の研究課題に沿った研究授業と授業後の話し合いがされ、矢部先生からは今後の研究に向けた講話をいただきました。どちらの学校も短時間ではありましたが、有意義な研修会となりました。

赤野小学校1、2年生「かたちあそび・かたちづくり」 「長方形と正方形」

赤野小学校は複式学級です。主に、学習リーダーが学習を進めていきます。1年生では、今どこをやっているのか分かるように、“学びの時計”も学習リーダーが動かします。2年生は一人学級です。先生と課題を確認した後は、自力解決を行います。どうしても分からない時は、先生にヒントを出してもらって解決へ向かっていきます。一人学級の場合は、先生がもう一人の存在として、生産的な指示をしていくとよいということを矢部先生から教えていただきました。

また、1学期に矢部先生からアドバイスしていただいた、2年生が1年生に“教える”ということを実践し、児童も落ち着き、自信を持って学習に取り組めるようになったということでした。来年度から複式の学級ができる学校からは3名の参加があり、複式学級の授業の在り方について熱心に意見交換をしていました。



土居小1年生「かたちあそび」

土居小学校1年生では、前時に身の回りにある箱などを高く積み上げるなどの活動を行い色々な立体の形に触れ、本時の学習に入りました。球、円柱、直方体、立方体などを仲間分けし、グループ分けした形に名前をつけようというめあてを立てて学習を進めます。班活動が始まると、仲間分けする箱を触り、積んだり、転がしたりして2つ、4つとそれぞれの考えをまとめていきました。班でグループ分けができれば、タブレットで写真を撮り、ロイロノートにアップするというICTの活用を1年生から行っていました。

今年参加したICTに関する研修会では、ICT機器を用いた学習を1年生のうちから積極的に取り組んでいくことで、学年が上がるに従って、「ノートに書くかタブレットに打ち込むか」などの選択肢の一つとして考えることができるようになることや、タブレット操作についてのトラブルが減少することにつながるということをお聞きました。



講話より

今日の授業ではどの考え方を働かせるのか

類推的(同じように)、演繹的(理由をはっきりさせる、正しさを証明する)、帰納的(きまりを見つける)、統合的(結びつけて考える)、発展的(広げて考える)どんな考え方を働かせる授業なのか頭に入れて授業を行う。

集団の中で活躍できる子を！

自分の考えがないと対話をしてはいけないのか。口が達者な子に引っ張られるではダメなのか。そうではなく、他者と対話をするを通して自分の意見を確立していく。自分の考えが持てなくても、迷っていても自分の考えを確立するために対話をするのである。

自立した学習者を育てる

一度指示を出したら、“とも学び”あたりまでは子どもたちだけで進めるようになるといい。できたら“まとめ”までいけるようにする。こういうことを繰り返すと主体的な学びになる。

瞬時に実態把握を行う

机間巡視で子どものノートや行動を見て、瞬時にどこでつまづいているか実態把握ができないと支援が施せない。課題が決まったら、「目の前の子どもたちならここでつまづく」「ここまでで手が止まるのではないかな…」などと考えておく。

教育支援センター

自然体験！！ 野生塾

休校中の川北小奈比賀分校を活用して、『野生塾』を開校しています。9月28日(土)に第2回野生塾「ナンを焼いてカレーを食べよう」(11家庭26名参加)、10月19日(土)に第3回野生塾「タイの文化と料理」(12家庭32名参加)、11月30日(土)に第4回野生塾「バウムクーヘンを作ろう」(9家庭22名参加)を行いました。

【ナンを焼いてカレーを食べよう】 講師：松本伸也先生



☆皆で作って、皆で食すことは大人になってなかなかできることではないので、全てが楽しかった。

☆初めてのナンづくり、予想外に簡単で楽しくつくることができました。楽しい休日を過ごすことができました。ありがとうございました。

☆暑い中、指導していただきありがとうございました。家でも台所に立つことが多くなってきたところなので、子どもにとっていい経験になったと思います。

【タイの料理と文化】 講師：小西倫子先生



☆タイ料理は普段食べる機会がないので、とても良い経験になりました。以外と簡単にできて身近に感じました。そして何より鉄板での調理は野生塾の醍醐味で、釜で炊いたご飯も感動しました。スタッフの皆さん、いつもありがとうございます。

☆クイズなどで、タイの文化にふれられたのは楽しかった。野菜を切ったり、炒めたりと子どもたちも直接かかわれたことは楽しかったと思います。

☆みんなが協力してつくるからたのしかった。

【バウムクーヘンを作ろう】 講師：安岡雄三先生



☆終始和やかな雰囲気楽しく参加させていただきました。いろいろな食感のバウムクーヘンが食べられてとても良い経験ができました。

☆初めてのバウムクーヘン作りはとても楽しかったです。皆で輪になって焼く作業も、一体感があってとても良い経験になりました。ありがとうございました。

☆初めての参加でしたが、皆さんとても優しく、楽しくできました。貴重な体験ができたので、また次も参加したいです。

◇◇第4回教育支援センター運営委員会について◇◇

12月12日(木)に第3回教育支援センター運営委員会を予定しておりましたが、研修等の関係で中止とさせていただきました。今回予定していた学習会につきましては、第4回で実施します。

第4回教育支援センター運営委員会

日 時：令和7年2月6日(木) 15:00(学習会は15:40～)

場 所：安芸市役所第1・第2会議室(2階)

講 師：竹口佳昭スクールカウンセラー

演 題：「不登校対応と未然防止」(予定)

※運営委員の方以外で、参加を希望される方がいらっしゃいましたら、教育研究所までご連絡ください。

ふれあい教室

2学期の取組

ふれあい教室では、奈比賀地区運動会への参加や柚子採り・柚子搾り体験・販売学習、秋の遠足、野生塾等、様々な活動を行いました。また、日々の生活ではふれあい教室だけではなく、学校の授業（リモート参加を含む）や行事（学習発表会や運動会）にも参加することができた児童生徒も見られ、心身ともに成長することができた2学期となりました。



畑作業（耕運機）



花壇の整備



柚子搾り



ふれあい出張カレー



遠足（伊尾木洞）



柚子ケーキづくり

今後ともふれあい教室の活動にご支援・ご協力を
どうぞよろしくお願いいたします。



父のふるさとチョウシ



土居小学校 小松 良浩

江川横山地区から江川川に沿って4km ほど奥に行った所にチョウシと呼ばれる集落がある。私の父親が育った場所である。昔は5, 6軒ほどが暮らしていたそうだが、今は誰も住んでおらず、柚子畑が点々とあるくらいだ。

祖父は山仕事をしており、チェーンソー作業が原因で白ろう病を患っていたのを覚えている。夏には、私たち孫が川遊びできるようにと、石とビニールシートで川を堰き止め、小さなダムを作ってくれた。大きな岩から飛び込んだり、チャン鉄砲でゴリをついたりして楽しんだ。獲ったゴリは祖母が煮付けてくれて晩のおかずになった。夕方になると一人で風呂焚きをするのが楽しみだった。薪のくべ方は祖父から教わった。自分で焚きつけた五右衛門風呂は格別に気持ちが良く、少し大人になったような気分にもなった。祖父は時々私をカブ(ホンダのバイク)の後ろに乗せてくれた。舗装もされていない砂利道でスピードを出すので、振り落とされそうで怖かったのを覚えている。

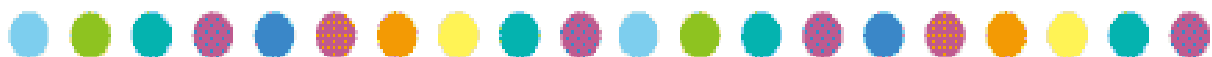
父親は、八ノ谷小学校と東川中学校に徒歩で通ったそうだ。両校とも家から4～5kmの所にあり、道中には勾配のきつい坂もあって、さぞかし通学が大変であったと思う。父親本人は、「子供の頃、学校まで遠くてしんどかったけど、その分、足腰は鍛えられたで」と自慢げに言っていた。今年で83歳になる父親であるが、昨年までは一人でたけのこ堀りや柚子獲りに出かけるなど、健脚ぶりは見事であった。

柚子の樹は、段々畑に200本ほど植わっており、私が小さい時に祖父が植えたものである。収穫時期となる10月下旬から12月上旬にかけては、毎年休日返上で収穫と柚子絞りを家族総出で行なってきた。実生の樹は、高く伸びており、先に丸の字に曲げた針金の付いた竹竿で引っかけて獲らなければならない。長い竹竿を使っても獲れない時には、脚立によじ登って獲るようにしている。地面に落ちた柚子の実を拾い集め、畑の隅で柚子を絞る。搾り機は昔ながらの板で挟む物であり、大変力のいる作業である。祖父が亡くなり父親の代になってからは、家族だけでの作業は困難で、休日になると親戚が入れ替わりで手伝いに来てくれるようになり、何とか続けることができていた。ふだん人気のない寂しいチョウシの山も、収穫時期だけは賑やかになる。冗談好きな父親自身、親戚が集まってわいわい言いながら作業できるのを楽しみにしていたようだ。

しかしながら、健脚を自慢していた父親も身体が弱り、ついに今年は山に行くことができなかった。来年は、せめて一緒に山に行き、作業ができなくても傍で冗談を言いながら、またわいわいと過ごせるようにと願っている。

祖父が植えた実生柚子の樹は、半世紀を過ぎた今も元気に伸び続けている。これから私の代になっても、父がそうしたようにチョウシの山を守っていこうと思っている。





安芸市教育研究所

〒784-8501

安芸市土居82-1

TEL (0887) 32-0232

FAX (0887) 35-1051

E-mail : aki-l@city.aki.lg.jp



安芸市出身 三菱グループの創始者 岩崎 弥次郎